

平成 28 年 7 月 2 日に行われた山辺町家庭教育充実事業「子育て講演会」では、親コミ研究所の鈴木洋子氏より、『やる気を支える子育て』という題で子どもや周りの方と良い関係を築くための接し方などについてお話し頂きました。実演を交えてのお話もあり、かけられた言葉によって実際にどんな気持ちになるか感じる事が出来、実のある時間となったのではないかと思います。鈴木先生のご講演の内容の主なところを次にお知らせ致しますので、当日頂いたレジメと共にもう一度振り返って頂き、日々の生活に生かして頂ければ有り難く存じます。

「子どものやる気を支える子育て」

講師 鈴木洋子氏（親コミ研究所 代表）


- 「子どもに幸せになってほしい」
…すべての親の願いだが、年齢が上がると段々欲張りになってしまう
- 「子どもを持てば誰でも親といわれるが、
親として何をすべきか最初から知ってはいない」（トーマス ゴードン）
- 小さい時に親からされて嫌だったこと→子どもにしてはいけない。
子どもへの接し方がわかると生き方がとても楽になる。
- 話の聞き方 「白いボールは白いまま返す」


- ・黙って聞く
- ・相槌を打つ
- ・繰り返す
- ・言い換える
- ・気持ちを汲む

こちらの思い込みや考えで子どもの気持ちを否定したりすると、子どもは本心を語らなくなり、心が見えなくなってしまう

気持ちをわかってもらおうと嫌な気持ちは流れていく※不機嫌の原因を探って快適になるようにと接していた赤ちゃんの時を思い出して！

○コミュニケーションの3K

悪い3K  ← 聞かずに
拒否して
強要する

良い3K  ← 聞いて
共感して
解決する

○コミュニケーションの成り立ち

「今、何をしてほしいかをきちんと伝える」

伝える力を 100 とすると…

- ・言葉の力 : 7
- ・態度(表情)の力 : 55
- ・口調の力 : 38

※意外に言葉だけでは伝わらない
表情、口調など姿勢や態度も含めて
やってほしいことはしっかり伝える

○障害となる言い方…相手の自尊心を傷つける

わかってもらえない→反発を感じる

- 1 命令・指示
- 2 脅迫・注意
- 3 説教・訓戒
- 4 提案・忠告
- 5 講義・講釈
- 6 非難・批判
- 7 賞賛・同意
- 8 侮辱・悪口
- 9 解釈・分析
- 10 激励・同情
- 11 尋問・探りを入れる
- 12 ごまかし

講演会の中で、保護者の皆さん
の中で役割を決めて、障害となる
言い方をされた時、どんな気持ち
になるのか実践しました。
※具体的な例を裏面にプリント
しました。「障害となる言い方」
の参考例としてご覧ください。

<まとめとして>

*中川李枝子さんのことば
(絵本作家)
「スマホの画面を見ていない
で、お子さんの顔を見てね」

*お子さんが赤ちゃんの時代
に持っていた「アンテナ」を忘
れないでください。
「もう〇歳」ではなくて
「まだ〇歳」

子どもの気持ちを受け入れて共感することで、子どもたちは素直な気持ちで次のステップに進める
のですね。大人の方が、自分の気持ちに折り合いをつけて感情的にならずに接する…日々の生活の
中でできる限り頑張ってみましょう。きっと笑顔が増えそうですね。